

全国同時七夕講演会
愛媛・鹿児島・熊本・山口
四大学合同七夕講演会 2025「宇宙への招待」

芝池 諭人（鹿児島大学）

2025年7月5日に開催された、四大学合同七夕講演会 2025「宇宙への招待」(図1)にて、講演を行いました。この講演会は、愛媛・鹿児島・熊本・山口大学の四大学が毎年合同で企画している一般向け講演会で、全国で開催される日本天文学会が主催する「全国同時七夕講演会」の一つでもあります。今年は愛媛大学、KDDI 山口衛星通信所、そしてオンラインで開催されました。

講演者は熊本大学の伊東拓実氏、愛媛大学の善本真梨那博士、山口大学の藤澤健太教授、そして私の四人でした。私は、現地参加はせず、鹿児島からのオンラインでの参加・発表となりました。講演会の冒頭には、本センターの高桑繁久教授が開幕の挨拶を行いました。

私は「最新の望遠鏡とシミュレーションで、惑星誕生の謎に迫る!」と題した講演を行いました。惑星の形成過程について、日本の研究者が形成理論の礎を築いた話から、最新の数値シミュレーションとALMAに代表される最新の望遠鏡による観測成果まで、惑星の誕生について解説しました。講演後に設けられた質問の時間には、聴講者から非常に鋭い質問も出て、盛況に終わりました。また、私以外の研究者による講演も非常に興味深いものでした。特に藤澤教授による、宇宙の謎にまつわる絵本の朗読には、驚きました。宇宙に関する講演会といえば、美しい天文写真やCG映像などに頼りがちですが、あえて朗読という形を取ることで、聴講者の方も集中することができたのではないのでしょうか。実際に朗読に感銘を受けた方が多くいたようで、アウトリーチの手法として大変勉強になりました。

どの程度参加者がいるのか不安に思うところもありましたが、蓋を開けてみれば、愛媛会場の現地参加の方が40名強、山口会場は50名強、そしてオンライン参加者は50名強と、非常に多くの方に聴講していただくことができました。

講演会で実施した参加者アンケートでは、愛媛会場の参加者からは概ね好評をいただき、発表内容についても、「わかりやすかった」との評価を多くの方から頂くことができました。一方で、山口会場の聴講者からは、「音響設備の影響で他会場・オンライン講演が聞き取りづらかった」との感想を多くいただきました。オンライン講演ならではの難しさを実感しました。



図1: 講演会のフライヤー